

# 川越市観光アンケート調査 報告書

平成22年度



川越市マスコットキャラクター  
ときも

平成23年5月

川 越 市

## 目 次

|                      |    |
|----------------------|----|
| 1. 平成22年川越市入込観光客数の概要 | 2  |
| 2. 観光アンケート調査の統計・分析   | 3  |
| 2-1. 観光アンケート調査の趣旨    | 3  |
| 2-2. 観光アンケート調査の方法    | 3  |
| 2-3. 観光アンケート調査の結果    | 5  |
| 2-3-1. 出発地           | 5  |
| 2-3-2. 性別            | 10 |
| 2-3-3. 年齢            | 10 |
| 2-3-4. 同行者           | 11 |
| 2-3-5. 交通手段          | 12 |
| 2-3-6. 滞在期間          | 12 |
| 2-3-7. 宿泊観光客         | 13 |
| 2-3-8. 観光時間          | 14 |
| 2-3-9. 来訪回数          | 14 |
| 2-3-10. 認知方法         | 15 |
| 2-3-11. 立ち寄り観光地      | 16 |
| 2-3-12. 交通費          | 17 |
| 2-3-13. 宿泊費          | 17 |
| 2-3-14. 飲食費          | 18 |
| 2-3-15. 入館料・入場料      | 18 |
| 2-3-16. お土産品購入費      | 19 |
| 2-3-17. 要望           | 19 |
| 2-3-18. 意見・感想        | 20 |
| 3. 観光消費額             | 21 |

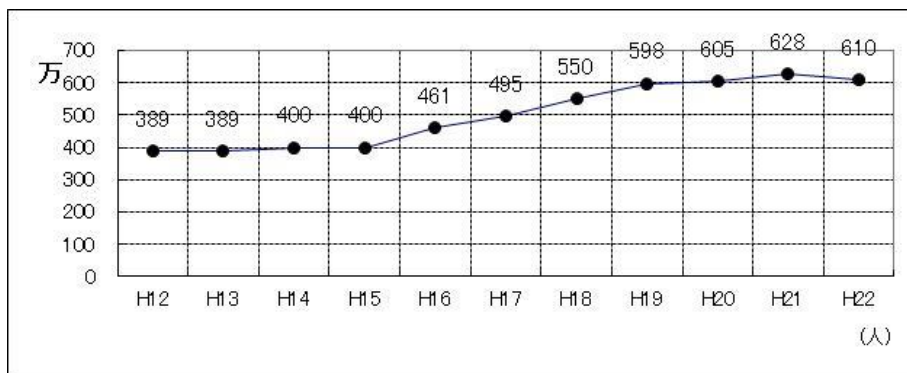
## 1. 平成22年川越市入込観光客数の概要

平成22年に川越を訪れた観光客数は609万7千人だった（外国人観光客含む）。前年に比べ17万8千人の減少（▲2.8%）となった。

このうち、市内の主要な観光地は軒並み減少となった。喜多院は前年比で93,743人（▲22.7%）、時の鐘は142,644人（▲22.5%）、菓子屋横丁は179,662人（▲30.4%）、市立博物館は6,879人（▲11.1%）、市立美術館は11,549人（▲15%）、川越まつり会館は16,372人（▲19.2%）、蔵造り資料館は15,805人（▲23.6%）の減少という結果だった。

今回、入込観光客数が減少した主な要因としては、夏場の記録的な猛暑による影響や平成21年に放送されたNHK連続テレビ小説「つばさ」による誘客効果が落ち着いてきたといったことが考えられる。

（表1） 過去10年間の川越市入込観光客数



また、平成22年に川越を訪れた外国人観光客は42,000人となり、前年比で17,000人増加した（68%の増加）。

これは、世界各国の景気回復による外国旅行需要の拡大やビジットジャパンキャンペーン等の宣伝効果、10月末からの羽田空港の国際定期便就航などの影響が要因となって、結果として、川越を訪れる外国人観光客の数が増加したものと考えられる。

## 2. 観光アンケート調査の統計・分析

### 2-1 観光アンケート調査の趣旨

観光アンケート調査は、観光客一人一人に対する聞き取りによるもので、その結果を基に、観光客の出発地、アクセス方法、立ち寄り観光地、観光消費額など、観光客の基本的な動態を把握することを目的としている。

これまでに、平成17年（標本数：9,924件、調査期間：平成17年1月～平成17年12月）、平成19年（標本数：7,491件、調査期間：平成19年1月～平成19年12月）、平成20年度（標本数：9,341件、調査期間：平成20年4月～平成21年3月）、平成21年度（標本数：6,197件、調査期間：平成21年4月～平成22年3月）と当調査を実施してきた。

当調査の実績に基づき、平成22年度も同様の調査を行うことによって、経年の変化を把握するとともに、観光客の特性を分析することによって今後の観光振興策の重要な資料とする。

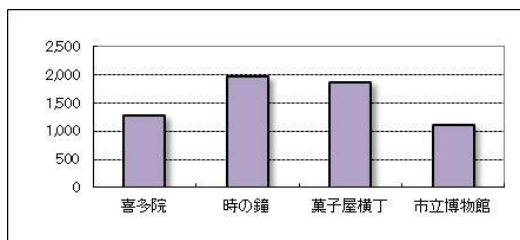
### 2-2 観光アンケート調査の方法

平成22年4月から平成23年3月までの1年間を調査期間とし、主要観光地点4ヶ所において、各地点を訪れる観光客に対し、聞き取りによる計6,243件の観光アンケート調査を実施した。

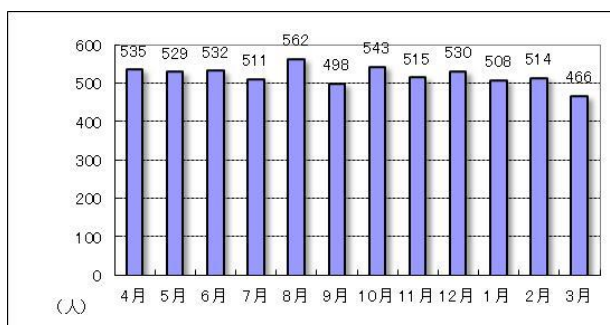
アンケート調査地点および各地点の聞き取り件数は（図1）のとおりである。

また、（図2）のとおり、6,243件のアンケート調査に偏りが出ないように、月毎に調査を実施している。

（図1） 観光アンケート調査地点と聞き取り件数



（図2） 各月の観光アンケート調査数



※なお、回答結果については、百分率（％）で表示しているものもあるが、小数点第2位で四捨五入しているため、その数値の合計は100％を前後する場合がある。

(参考) 実際に使用した観光アンケート調査表

(表)

**川越市観光アンケート調査票**

※調査員の方へ  
アンケートの票は、右の地点、年、月、日の欄を最初に数字だけ記入し、問1以降は該当する項目を丸で囲み、その後右欄へ記入してください。右欄が点線の場合は記入しないでください。

問1 お住まい、性別、年齢をお教えください。  
 (1) 都道府県名 ( ) (海外の方は国名)  
 ※埼玉県、東京都、神奈川県にお住まいの場合は、市区町村名 ( )  
 (2) ①男性 ②女性  
 (3) ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60歳以上

問2 どなたといらっしゃいましたか。(ひとつだけ)  
 ①ひとり ②夫婦 ③子供連れ家族  
 ④その他家族(両親や兄弟など) ⑤友人知人 ⑥仕事仲間  
 ⑦地域の団体 ⑧学校の団体 ⑨その他

問3 川越までの主な交通手段は何ですか。(ひとつだけ)  
 ※複数の交通手段を利用している場合は、最後に利用した交通手段  
 ①JR線 ②東武線 ③西武線 ④路線バス・タクシー  
 ⑤観光バス ⑥自家用車 ⑦バイク・自転車 ⑧徒歩

問4 川越へ滞在される(された)期間はどのくらいですか。(ひとつだけ)  
 ①日帰り ②1泊 ③2泊 ④3泊 ⑤4泊以上  
 ※川越市内で宿泊した場合は、②～⑤を記入。

問5 川越での観光時間はどのくらいですか。(ひとつだけ)  
 ①1時間程度 ②2時間程度 ③3時間程度 ④半日  
 ⑤1日 ⑥1日以上

問6 川越にはこれが何回目のご旅行ですか。(ひとつだけ)  
 ①初めて(1回目) ②2回目 ③3回目 ④4回以上

(裏)

問7 川越をどのようにしてお知りになりましたか。(複数回答可)  
 ①テレビ・ラジオ ②ポスター・パンフレット  
 ③新聞・雑誌 ④旅行会社等のツアー ⑤インターネット  
 ⑥友人などに勧められて ⑦最初から知っていた(地元の方も含む)  
 ⑧その他 ( )

問8 川越市マスコットキャラクター「ときも」をご存知ですか?  
 ①知っている ②知らない

問9 川越のどこを観光されます(しました)か。(複数回答可)  
 ①蔵造りの町並み ②時の鐘 ③菓子屋横丁 ④曹多義 ⑤蔵造り資料館  
 ⑥川越まつり会館 ⑦市立博物館 ⑧市立美術館 ⑨川越城本丸跡  
 ⑩蔵造り ⑪永川神社 ⑫坂田山川越別院 ⑬江戸風車  
 ⑭その他 ( )

問10 川越市内において、一人あたりいくらくらい使われます(しました)か。  
 (1) 交通費(市内バス、又はタクシー代) 円  
 ※タクシーを複数人で利用の場合は、人数で割った額  
 (2) 宿泊費 円  
 (3) 飲食費 円  
 (4) 入館料・入場料 円  
 (5) お土産品購入費 円

問11 川越に対する要望についてお聞かせください。(複数回答可)  
 ①交通の安全性の向上 ②駐車場の整備 ③観光スポットの充実  
 ④無料休憩所・トイレの整備 ⑤観光案内板の整備  
 ⑥ポケットパークの充実 ⑦観光パンフレット・ガイドの充実  
 ⑧障害者への配慮 ⑨レンタサイクルの充実  
 ⑩その他 ( )

ご協力ありがとうございました。

また、調査にご協力頂いた観光客に対しては、調査終了後に「ときもポケットティッシュ」を手渡した。

(参考) ときもポケットティッシュ



※ときも…川越市のマスコットキャラクターで、平成22 年3 月に誕生した。時の鐘とサツマイモをモチーフにしたキャラクター。

## 2-3 観光アンケート調査の結果

### 2-3-1 出発地

アンケート回答者総数6,243人のうち、国内が出発地の観光客は6,112人、国外が  
出発地の観光客は116人だった（15人は不明）。

以下、出発地の分析を国内と国外とに分けておこなう。

#### (1) 国内

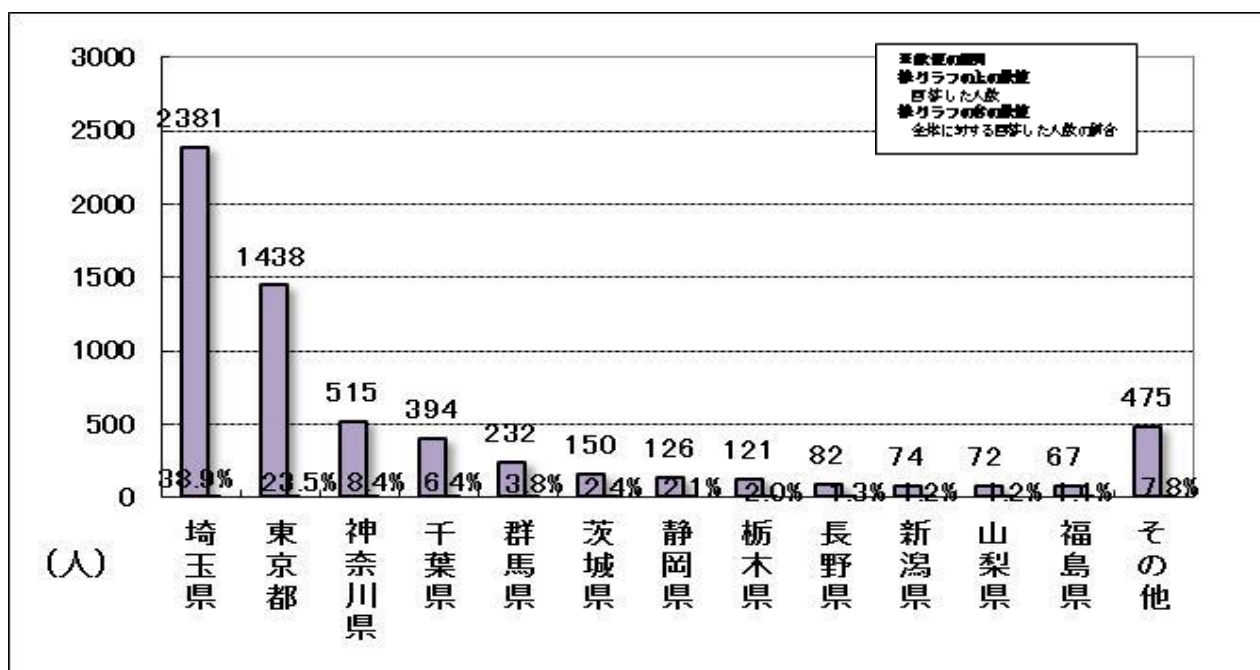
##### ①都道府県別

川越を訪れた観光客の8割以上が関東地方の各都県から出発しており、例年通り上  
位を占める結果となった（図3）。特に、県内市町村および東京都を出発地とする観光  
客の割合が62.4%であり、前年度と比較して2.5%上回った（平成21年度：59.9%）。  
これは、首都圏から約1時間で訪れることのできる立地特性が要因となっているもの  
と考えられる。

また、県内市町村および東京都以外を出発地とする観光客の割合は37.6%であり、  
前年度より2.5%下回り、遠方から訪れる観光客割合が減少した。

関東地方の各都県以外では、静岡県（126人・2.1%）、長野県（82人・1.3%）  
から出発した観光客が上位の結果となった。全国の各都道府県別出発地は表2のと  
おりである。

（図3） 出発地



(表2) 都道府県別出発地

| 地方    | 件数      | 都道府県別（上位順に表記）※カッコ内は人数                                                              |
|-------|---------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 関東    | 5, 303人 | 埼玉県(2,381), 東京都(1,438), 神奈川県(515), 千葉県(394), 群馬県(232), 茨城県(150), 栃木県(121), 山梨県(72) |
| 東北    | 185人    | 福島県(67), 宮城県(48), 山形県(28), 青森県(18), 岩手県(14), 秋田県(10)                               |
| 東海    | 200人    | 静岡県(126), 愛知県(55), 三重県(11), 岐阜県(8)                                                 |
| 北陸・信越 | 175人    | 長野県(82), 新潟県(74), 石川県(9), 富山県(6), 福井県(4)                                           |
| 近畿    | 82人     | 大阪府(41), 兵庫県(14), 京都府(14), 奈良県(6), 滋賀県(5), 和歌山県(2)                                 |
| 九州・沖縄 | 58人     | 福岡県(17), 熊本県(9), 長崎県(7), 大分県(6), 鹿児島県(6), 宮崎県(5), 沖縄県(5), 佐賀県(3)                   |
| 北海道   | 57人     | 北海道(57)                                                                            |
| 中国    | 36人     | 岡山県(16), 広島県(12), 島根県(3), 山口県(3), 鳥取県(2)                                           |
| 四国    | 16人     | 愛媛県(7), 香川県(4), 徳島県(3), 高知県(2)                                                     |
| 計     | 6, 112人 |                                                                                    |

※各都道府県の地方区分は、郵便事業株式会社発行の郵便番号簿の地方区分に従った。

## ②市区町村別（埼玉県・東京都）

全体の過半数以上に上る62.4%を占めた埼玉県と東京都の観光客について、市区町村別出発地は、図4（埼玉県）、図5（東京都）のとおりとなった。

### 【埼玉県】

埼玉県内の出発地で最も多かったのはさいたま市であり、全体の15.4%を占めたが、前年比では、2.1%下回った（平成21年度：17.5%）。距離の近さ、人口の多さ（1,235,207人、平成23年5月1日現在）、および、JR 川越線、国道16号などによる交通アクセスの利便性の良さなどが最上位になった要因と考えられる。

その一方で、川越市が前年よりも1.8%上回っており、第2位という結果だった（平成21年度：9.3%）。第3位は所沢市の8.0%だった（平成21年度：8.1%）。第3位までの順位は昨年度と変わらなかった。

その他にも、狭山市、上尾市、ふじみ野市などを出発地とした観光客が多かったが、いずれも距離の近さや交通アクセスの良さなどが要因となったものと考えられる。

(図4) 埼玉県の市区町村別出発地



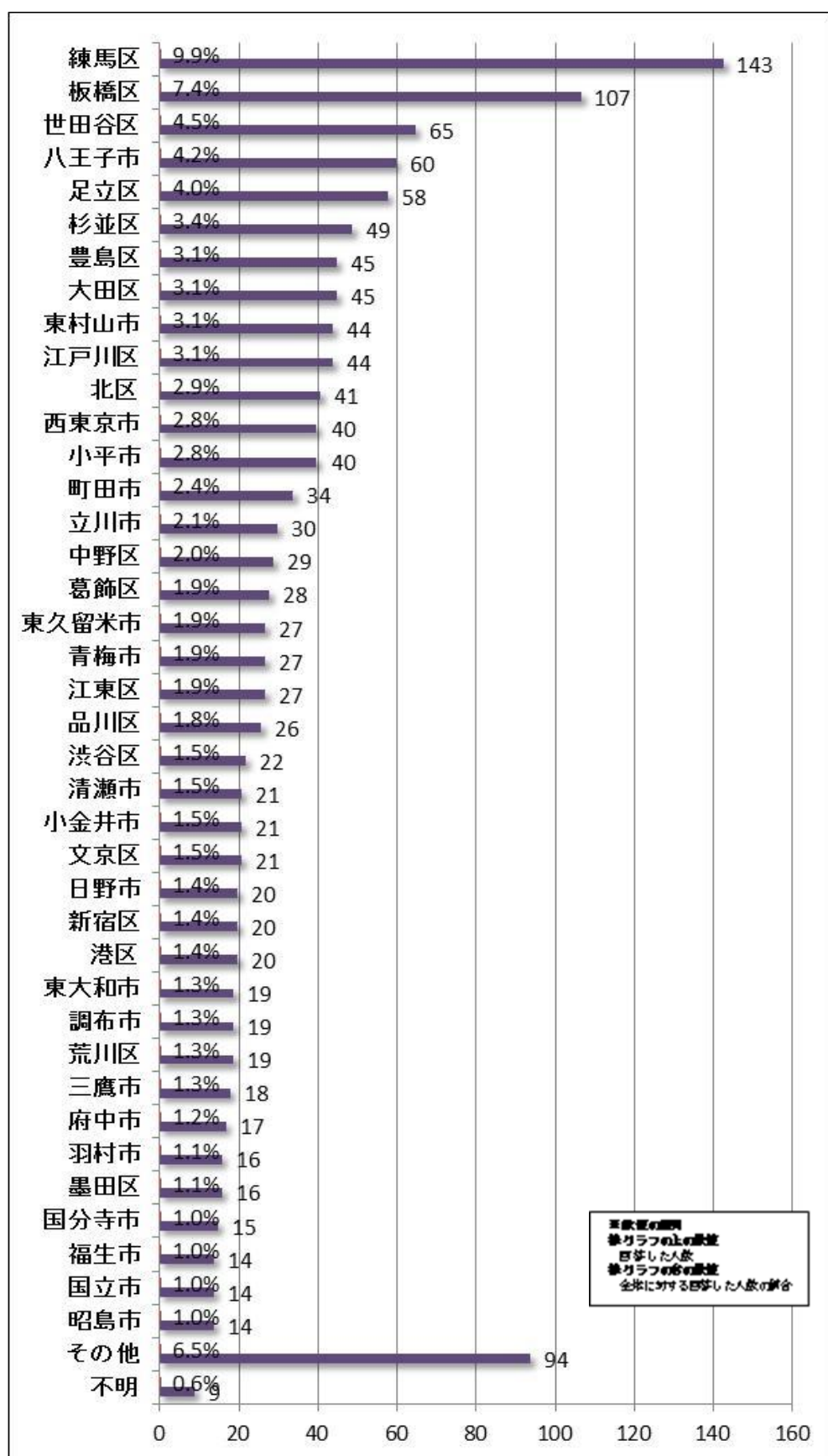
## 【東京都】

東京都内の出発地で最も多かったのは練馬区であり、全体の9.9%を占めた。ただし、前年よりも2.0%下回った（平成21年度：11.9%）。練馬区が第1位となった要因としては、人口の多さ（708,445人、平成23年5月1日現在）や、西武新宿線、東武東上線、川越街道（国道254号）、関越自動車道（練馬IC～川越IC）など交通の利便性が高いことが考えられる。

第2位は板橋区の7.4%で、前年よりも0.6%上回った（平成21年度：6.8%）。第3位は世田谷区の4.5%で、前年よりも0.4%下回った（平成21年度：4.9%）。第3位までの順位は、昨年度と変わらなかった。



(図5) 東京都の市町村別出発地



## （２）国外

国外から出発した観光客は１１６人であり、台湾（２６人）、韓国（２２人）、アメリカ合衆国（１５人）、香港（１３人）、中国（７人）が上位となった。（表３）特に、韓国から訪れた観光客が前年比で倍増しており（平成２１年度は１１人）、アメリカ合衆国、香港を抜いて、第２位という結果だった。

川越市川越駅観光案内所（ビジットジャパン案内所）の統計による平成２２年外国人観光客利用者数の上位国は、韓国（１，０１４人）、香港（７３６人）、台湾（５９２人）、アメリカ合衆国（５８０人）、中国（５１２人）で、とりわけ、韓国からの利用者が前年比で倍以上の増加となっており（平成２１年度：４６８人）、観光アンケート調査と同様の結果となった。

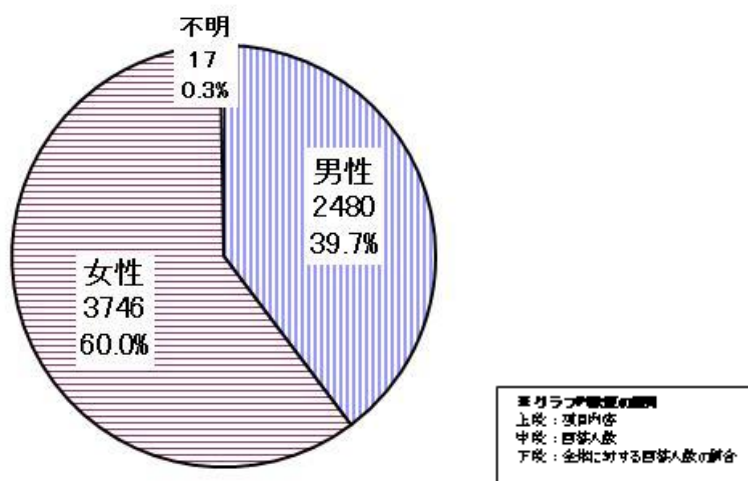
（表３）国別出発地

| 国 名                                                              | 回答者数 |
|------------------------------------------------------------------|------|
| 台湾                                                               | ２６人  |
| 韓国                                                               | ２２人  |
| アメリカ合衆国                                                          | １５人  |
| 香港                                                               | １３人  |
| 中国                                                               | ７人   |
| イギリス                                                             | ６人   |
| タイ                                                               | ４人   |
| ドイツ、フランス                                                         | 各３人  |
| オーストリア、スペイン、フィリピン                                                | 各２人  |
| イタリア、インド、インドネシア、カナダ、シンガポール、ニュージーランド、パキスタン、ブラジル、マレーシア、リトアニア、ルーマニア | 各１人  |
| 計                                                                | １１６人 |

## 2-3-2 性別

性別は、平成21年度の調査同様、女性が男性を上回っており、女性が60.0%、男性が39.7%という結果となった。（図6）

（図6） 性別

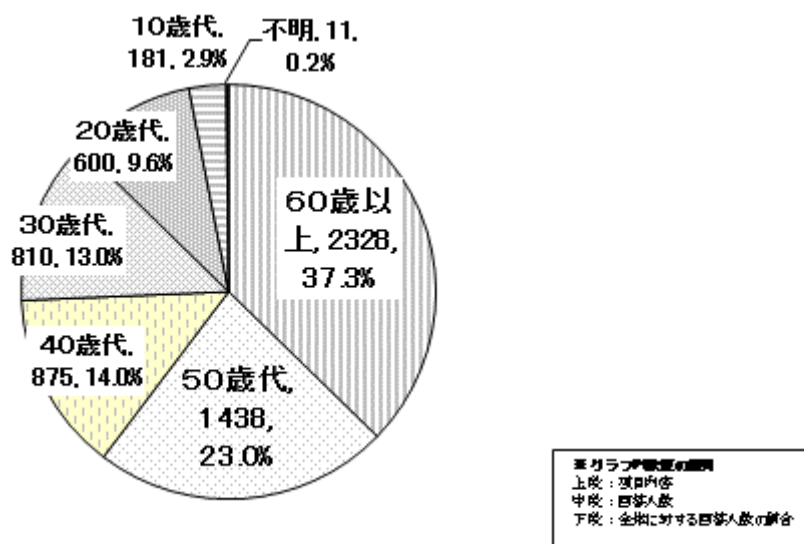


## 2-3-3 年齢

年齢の上昇に比例して、観光客割合も上昇した。（図7）

50歳代以上の中高年層が過半数の60.3%という結果だった。ただし、10歳代が前年よりも0.9%（平成21年度：2%）、20歳代が1.6%上回っており（平成21年度：8%）、わずかではあるが、若年層の観光客も増加していることが分かる。

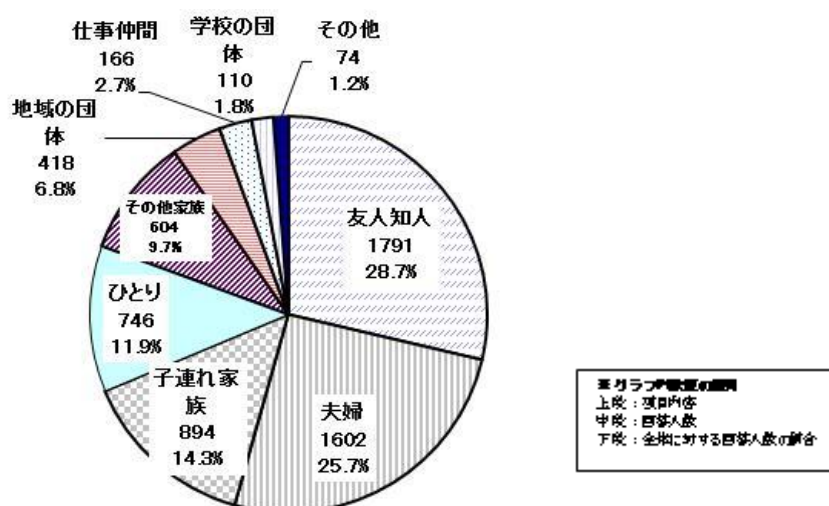
（図7） 年齢



## 2－3－4 同行者

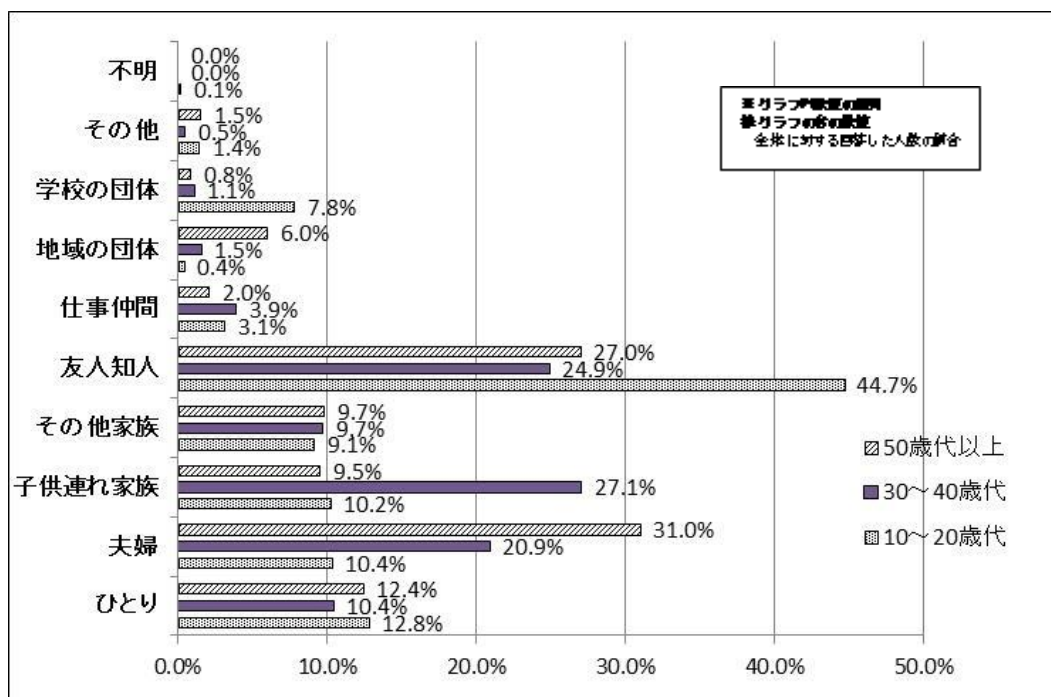
友人知人同士で川越を訪れる観光客が最も多く（28.7%）、夫婦（25.7%）、子連れ家族（14.3%）やその他家族（9.7%）も含め、家族で川越を訪れる観光客がおよそ半数を占める結果となった（49.7%）。（図8）

（図8）同行者



また、世代別（10～20歳代、30～40歳代、50歳代以上）の同行者を調べたところ、10～20歳代では友人知人の割合が最も多く（44.7%）、30～40歳代では友人知人（24.9%）と子連れ家族（27.1%）の割合が多く、50歳代以上では夫婦（31.0%）と友人知人（27.0%）の割合が多かった。（図9）

（図9）世代別同行者

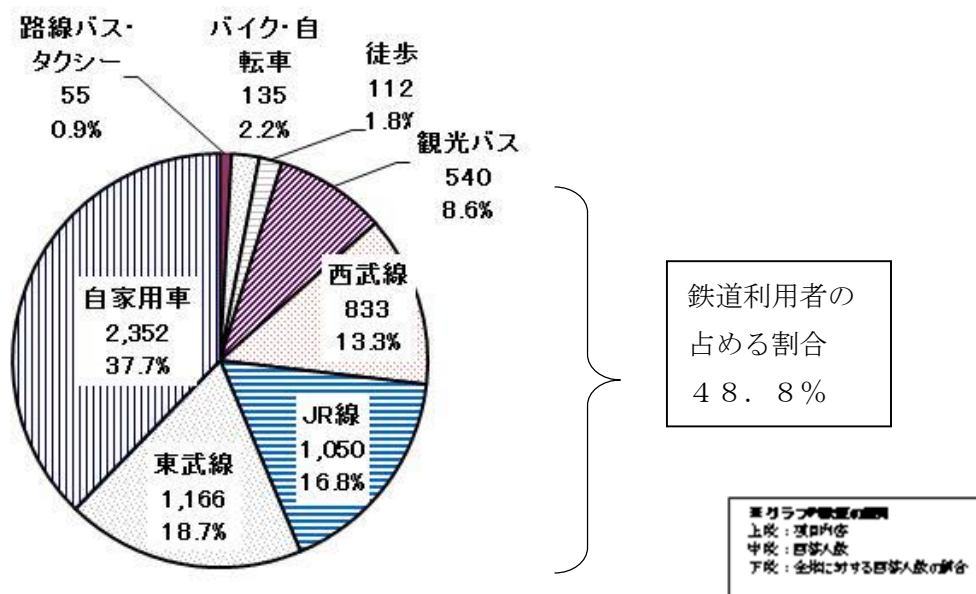


## 2－3－5 交通手段

川越に乗り入れている鉄道3社の利用客率を合計すると約半数（48.8％）になり、平成21年度の利用客率（51.7％）よりも、2.9％の減少となった。

また、自家用車の利用客率は前年度比で4.9％増加しており（平成21年度：32.8％）、観光バスの割合は前年度比で2.9％の減少となった（平成21年度：11.5％）。（図10）

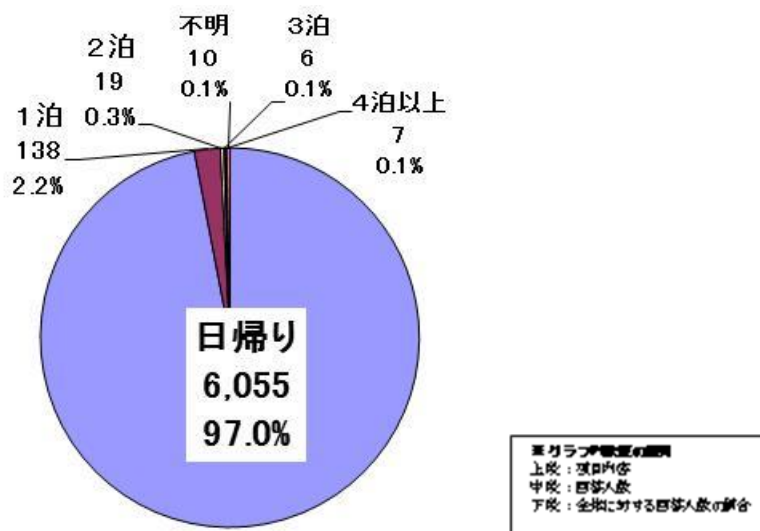
（図10）交通手段



## 2－3－6 滞在期間

川越市内の滞在期間は日帰りが97.0％と、大半を占めた。これは、平成21年度（日帰りが97.3％）と同様の結果であった。（図11）

（図11）滞在期間



## 2-3-7 宿泊観光客

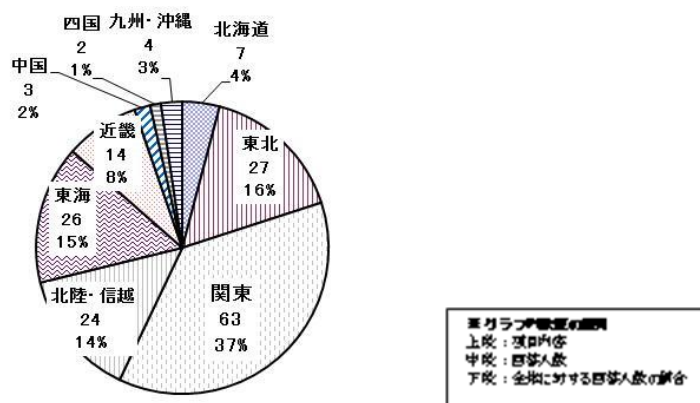
川越市内の宿泊を伴う宿泊観光客の割合は、2.7%（170人）だった。国外が出発地の観光客はいなかった。

国内の出発地の地方別内訳は(図12)、都道府県別内訳は(図13)のとおりである。

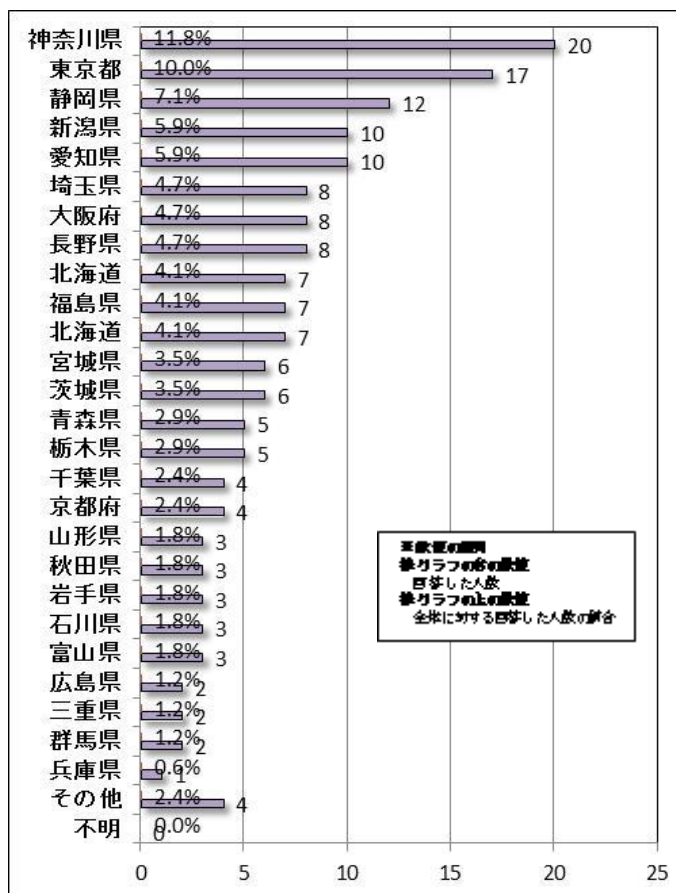
都道府県別では、神奈川県が最も多く(20人、11.8%)、次点は東京都(17人、10.0%)だった。

また、埼玉県を出発地とする観光客も8人(4.7%)が宿泊していた。

(図12) 宿泊観光客の地方別出発地



(図13) 宿泊観光客の都道府県別出発地

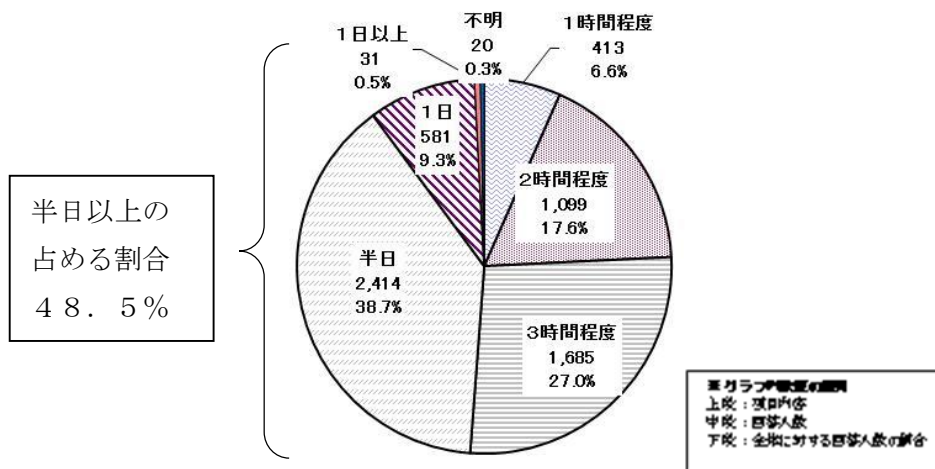


### 2-3-8 観光時間

川越は日帰り観光が主力となっていることから、観光時間が3時間程度から半日の観光客が大半を占めた。(図14)

平成21年度以降の観光アンケート調査と比較すると、観光時間が1～3時間程度の観光客率の推移は41.8%（平成20年度）→46.5%（平成21年度）→51.2%（平成22年度）、半日以上の観光客率の推移は55.9%（平成20年度）→52.6%（平成21年度）→48.5%（平成22年度）となっており、年々、観光客の滞在時間が短くなっていることが分かる。

(図14) 観光時間

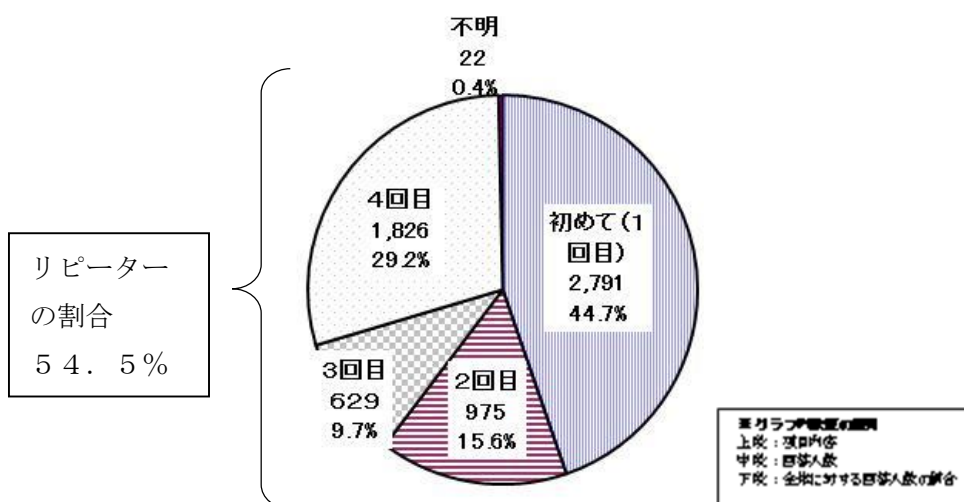


### 2-3-9 来訪回数

川越を「初めて」訪れた観光客は44.7%、2回以上訪れている「リピーター」は54.5%だった。(図15)

リピーターの中でも4回以上訪れているリピーターが多くを占めた（29.2%）。これらは、平成21年度とほぼ同じ水準だった。

(図15) 来訪回数

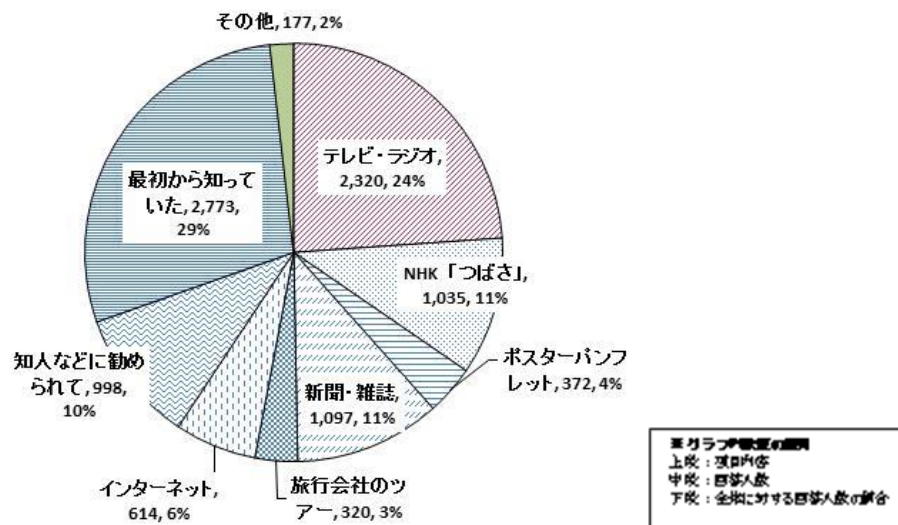




## 2-3-10 認知方法

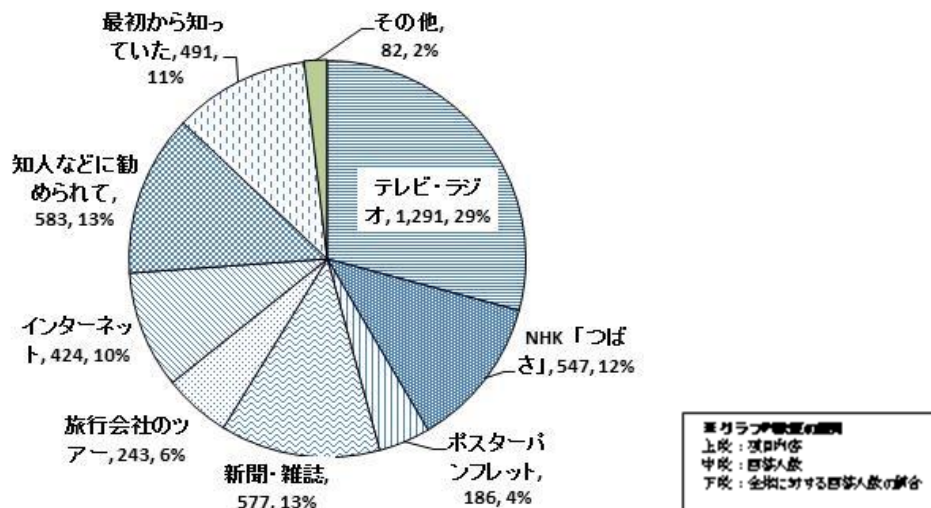
川越を知った方法は、「最初から知っていた（地元の人も含む）」が29%と最も多かった。（図16）そのうち、地元の方を除くと2,519 人となり26.0%という結果となった。テレビ・ラジオ（つばさ以外）で知った人の割合は、前年度比で3.4%増加したが（平成21年度：20.6%）、NHK「つばさ」を見て知った人の割合は、前年度比で3.1%減少した（平成21年度：14.1%）。また、新聞・雑誌で知った人（7.2%→11%）やインターネットで知った人の割合も（4.5%→6%）、やや増加している。

（図16） 認知方法



また、川越を初めて訪れた人の情報源を調べたところ（図17）、テレビ・ラジオが29%、インターネットが10%と、全体と比べて若干多い結果となった。

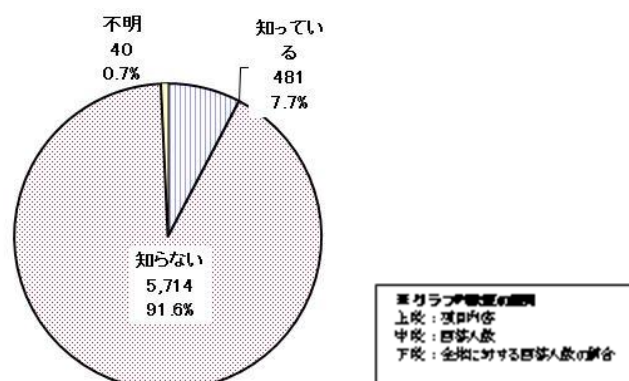
（図17） 初来訪者の認知方法



また、川越の認知方法とあわせて、川越市マスコットキャラクター「ときも」（4 ページ参照）の認知度についても調査を行った。「ときも」を知っていると答えた人は全体の7.7%で、大半の観光客に認知されていないことが分かった。（図18）



(図18) 「ときも認知度」



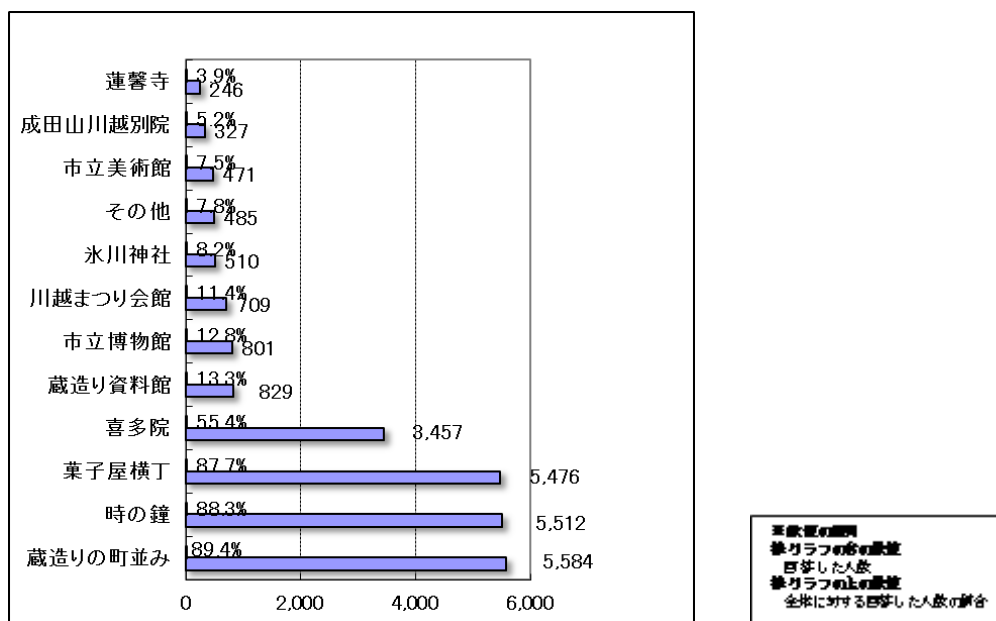
## 2-3-1 1 立ち寄り観光地

立ち寄り観光地は、蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁が全体の9割近くを占める結果となった。しかしながら、平成21年度の観光アンケート調査と比較したところ、3地点とも訪れる割合が減少している（蔵造りの町並み（92.1%→89.4%）、時の鐘（90.7%→88.3%）、菓子屋横丁（89.3%→87.7%）。（図19）

蔵造り資料館、川越まつり会館、市立博物館、市立美術館の4館を訪れた人の割合についても、平成21年度と比較すると、蔵造り資料館（17.6%→13.3%）、川越まつり会館（15.7%→11.4%）、市立博物館（15.4%→12.8%）、市立美術館（8.4%→7.5%）と、いずれも訪れた割合が減少している。

また、観光客一人につき、平成21年度は平均4.07箇所の観光地を訪れていたのに対し、平成22年度は平均3.02箇所の観光地を訪れていた。

(図19) 立ち寄り観光地



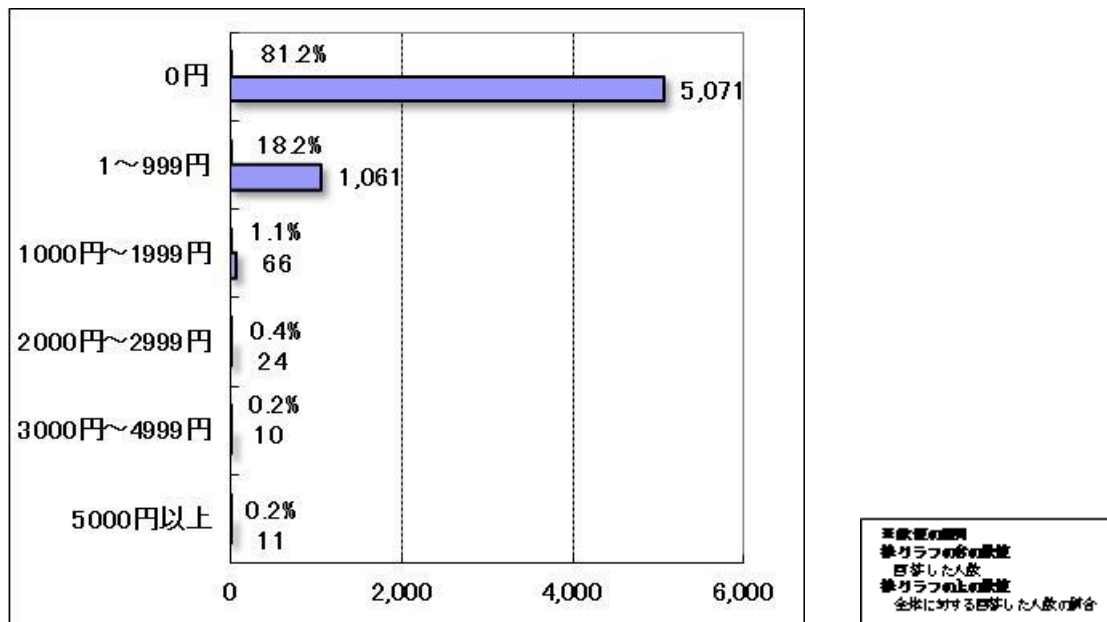
※回答者1人につき、複数回答あり

※割合 (%) は、それぞれの項目を回答した人数を、回答者総数（6,243人）で割ったもの

### 2-3-12 交通費

観光客の市内における交通費支出は、「支出なし」が81.2%と多くを占めており、前年度と比較して1.7%上昇した（平成21年度：79.5%）。「支出する」割合はおよそ20.1%であり、その多くは1,000円未満の支出だった。また、一人あたりの平均交通費は612円であり、平成21年度の687円よりも75円減少した。（図20）

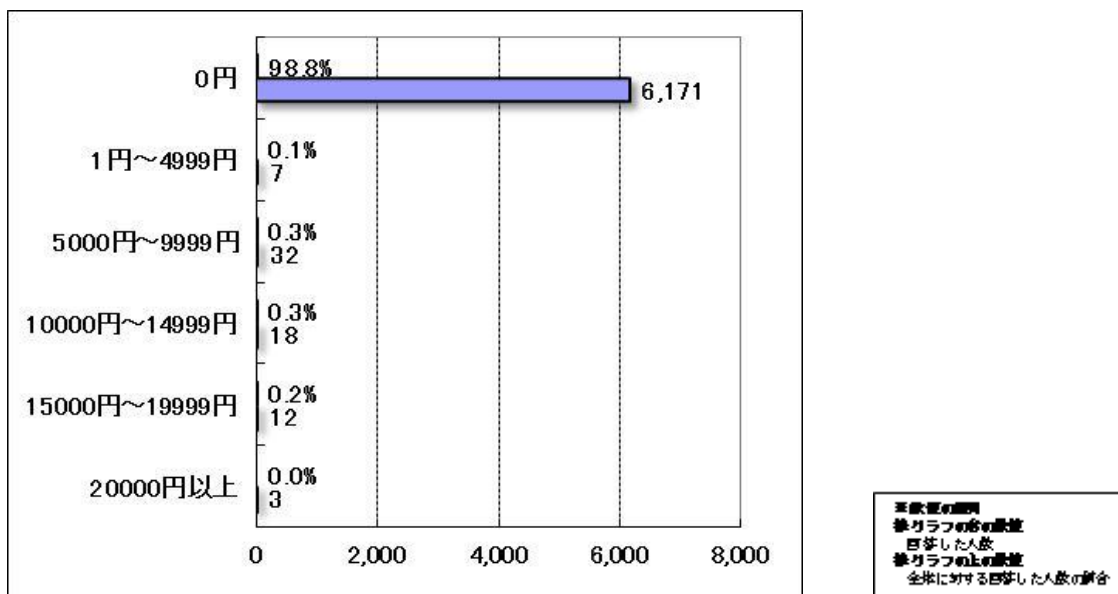
（図20）交通費



### 2-3-13 宿泊費

宿泊費を支出しない観光客の割合は全体の98.8%で、前年度と比較して0.3%上昇した（平成21年度：98.5%）。また、宿泊費を支出する観光客一人あたりの平均宿泊費は9,644円で、平成21年度の10,190円よりも546円減少した。（図21）

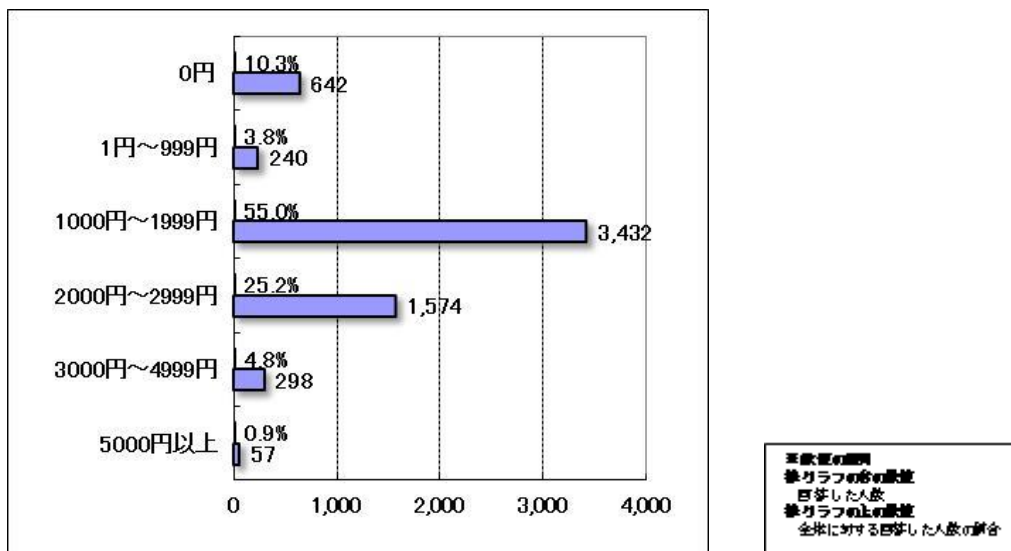
（図21）宿泊費



## 2-3-14 飲食費

市内における飲食費は「支出なし」が10.3%であり、平成21年度の9.8%と比較して、0.5%上昇した。飲食費は1,000円台が最も多く、一人あたりの平均飲食費は1,579円で、前年度の1,622円よりも43円減少した。（図22）

（図22） 飲食費

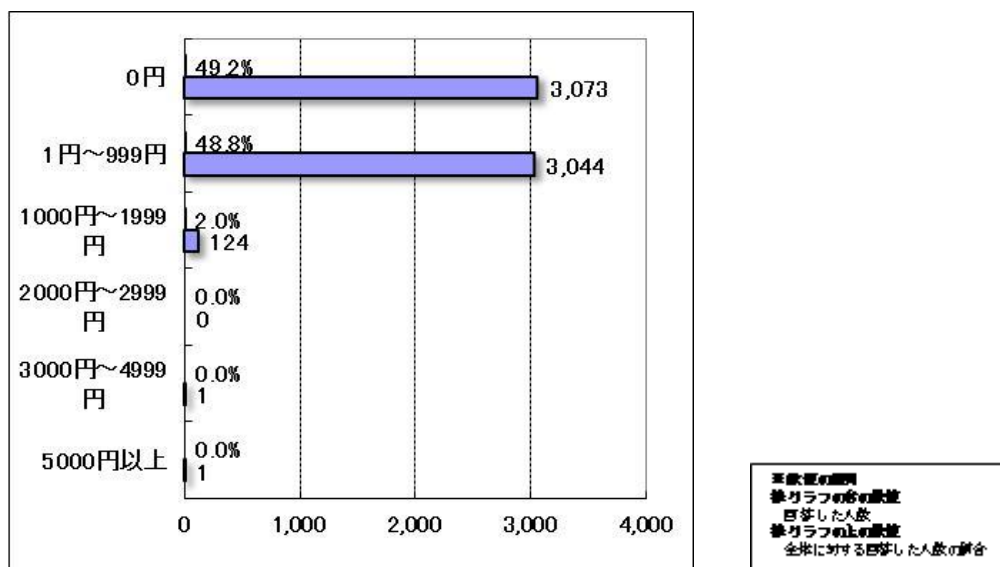


## 2-3-15 入館料・入場料

市内における入館料・入場料は「支出なし」が49.2%であり、平成21年度の46.7%と比較して、2.5%上昇した。入館料・入場料の支出は1,000円未満が最も多く、一人あたりの平均入館料・入場料は433円で、前年度の439円とほとんど変わらなかった。

（図23）

（図23） 入館料・入場料

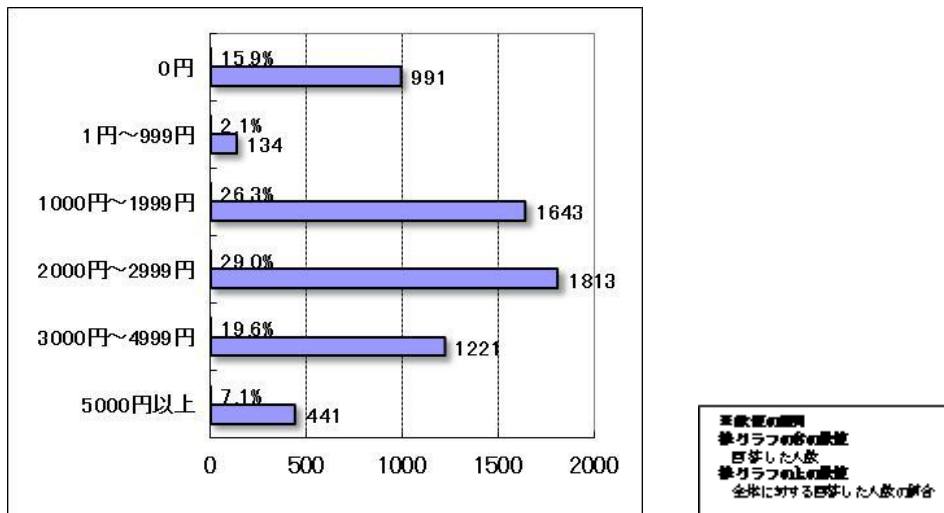


## 2-3-16 お土産品購入費

市内におけるお土産品購入費は、「支出なし」が15.9%であり、前年度の11.8%と比較して、4.1%上昇した。お土産購入費は、2,000円以上、3,000円未満が最も多く、1人あたりの平均購入額は2,283円で、前年度の2,300円と比較して17円減少した。

(図24)

(図24) お土産品購入費

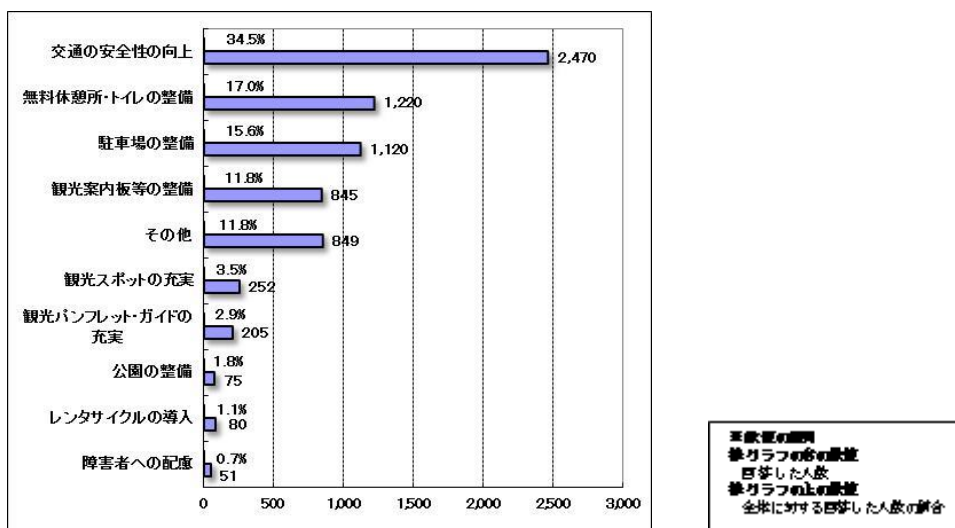


## 2-3-17 要望

「交通の安全性の向上」(34.5%)が要望として最も多く、平成21年度の観光アンケートの結果と同じだった。(図25)

次点は、平成21年度の結果同様、「無料休憩所・トイレの整備」で、3番目に「駐車場の整備」という結果だった。

(図25) 要望



※回答者1人につき、複数回答あり。(%)は回答者総数(6,243人)に対する割合である。

## 2－3－18 意見・感想

川越に対する具体的な意見・感想については、主に下記のような意見があった。中でも一番街の交通安全対策や交通規制（歩行者天国、一方通行）の実施を求める声が多数あった。また、駐車場や観光案内板の整備などを求める意見も多かった。

その他にも、洋式のトイレや団地で昼食が取れる施設、自転車の駐輪スペースなどの設置を求める意見もあった。

（表4）川越に対する主な意見・感想

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・駐車場の数が少ない。</li><li>・無料の駐車場を設置して欲しい。</li><li>・団地で昼食が取れるような施設があるとよい。</li><li>・交通規制（歩行者天国）を実施してほしい。</li><li>・自動車が多く、歩行者にとって危険。</li><li>・洋式のトイレを増やしてほしい。</li><li>・案内板が見にくい。</li><li>・トイレ、駐車場の目印を立ててほしい。</li><li>・ごみ箱が少ない。</li><li>・子供のオムツを代える場所や授乳する場所が少ない。</li><li>・史跡などをもっと活かせたらいいと思う。</li><li>・ボランティアガイドがいてくれたらよい。</li><li>・町並みの維持に力を入れてほしい。</li><li>・外国語の案内板が少ない。</li><li>・自転車の駐輪スペースを設置してほしい。</li><li>・自転車用の道路を整備してほしい。</li><li>・高速道路を下りたあとに案内標識があったらよかった。</li><li>・川越市駅にも観光案内所を設置してほしい。</li><li>・障害者用のトイレが少ない。</li><li>・お食事処のマップがあるとよい。</li><li>・観光用の巡回バスの本数をもっと増やしてほしい。</li><li>・観光PRをもっとした方がよい。</li><li>・魅力的なイベントをもっと開催してほしい。</li></ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 3. 観光消費額

観光する際に一般的に消費する「交通費」、「宿泊費」、「飲食費」、「入館料・入場料」、「お土産購入費」の5項目それぞれの平均消費額を調査し、これを基に、観光客一人あたりの平均消費額や川越にもたらされる全体の消費額、さらには、平成21年度と比較してどの程度の変化が見られたかを分析した。

平成22年の入込観光客数は609万7千人だったが、家族単位で訪れる時などは全員が消費活動を行うわけではないので、平成17年からの調査同様に、今回の調査結果からも家族単位で川越を訪れている観光客が多かったため（11ページ、図8参照）、実際に消費活動を行う人数を入込観光客数609万7千人の約40%の243万人と仮定し（平成21年度は627万5千人の約40%である250万人を用いた）、この数値から消費活動率などを踏まえて、川越にどの程度の消費がもたらされたかを試算した。

（表5）消費項目別の観光客平均消費額

| 項目      | 消費活動率 | 平均消費額   | 消費活動人数      | 消費総額            |
|---------|-------|---------|-------------|-----------------|
| 交通費     | 18.8% | 612 円   | 456,185 人   | 279,179,481 円   |
| 宿泊費     | 1.2%  | 9,644 円 | 28,025 人    | 270,273,763 円   |
| 飲食費     | 89.7% | 1,579 円 | 2,180,111 人 | 3,441,812,999 円 |
| 入館料・入場料 | 50.8% | 433 円   | 1,233,878 人 | 534,779,049 円   |
| お土産品費   | 84.1% | 2,283 円 | 2,044,267 人 | 4,666,645,099 円 |
| 計       |       |         |             | 9,192,690,391 円 |

※①消費活動率…アンケート回答者総数（6,243人）に対する、各項目で「支出あり」と回答した観光客の割合。

※②平均消費額…各項目において、観光客1人当たりが消費する平均金額。

※③消費活動人数…各々の項目で消費活動を行う人数。消費活動を行う対象となる観光客数243万人に各々の消費活動率を乗じたもの。

※④消費総額…各々の項目で消費される総額。平均消費額に消費活動人数を乗じたもの。

消費総額で最も高かったのは、お土産品費の約46億円で、最も低かったのは交通費の約2億7千万円だった。また、平均消費額で見ると、最も高かったのは、宿泊費の9,644円で、最も低かったのは、入館料・入場料の433円だった。

また、各々の消費総額を合計し、川越にもたらされる消費額全体を試算したところ、約91億9,200万円となった。平成21年度の結果（約98億4,500万円）と比較すると、約6.6%の減（約6億5,300万円の減）となった（図26）。

消費額が減少した主な要因としては、川越を訪れる観光客が平成21年に比べて減少

したことや（平成22年の入込観光客数は前年比で2.8%減の609万7千人）、川越を訪れる観光客全体の滞在時間が短く（14ページ、図14参照）、消費額が少ない（17～19ページ、図20～24参照）といったことが考えられる。

観光客一人あたりの平均消費額については、「日帰り観光客」、「宿泊観光客」、「観光客全体」に分けて算出した。（表6）

また、宿泊観光客については、「宿泊費を支出する観光客」（ホテルや旅館に宿泊と推定）と「宿泊費を支出しない観光客」（家族や友人の家などに宿泊と推定）がいたため、両者を区別して算出した。

（表6）滞在形態別の観光客平均消費額

|                | 人数(人) | 平均消費額(円) |
|----------------|-------|----------|
| 宿泊観光客(宿泊費支出あり) | 59    | 17,424   |
| 宿泊観光客(宿泊費支出なし) | 111   | 4,478    |
| 日帰り観光客         | 6,073 | 3,638    |
| 全体             | 6,243 | 3,783    |

「宿泊費支出あり」の宿泊観光客の平均消費額は17,424円、「宿泊費支出なし」の宿泊観光客は4,478円、日帰り観光客は3,638円だった。

また、観光客全体では3,783円だった。4,016円だった平成21年度と比較すると、233円（5.8%）減少した。

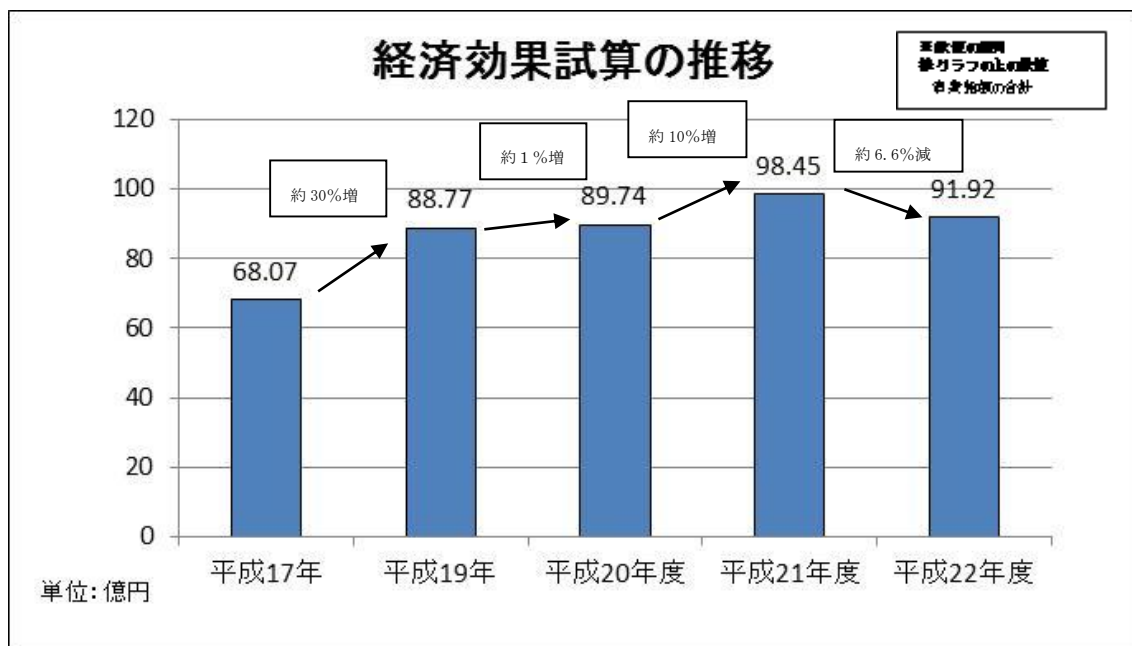
次に、世代別（10～20歳代、30～40歳代、50歳代以上）で平均消費額を調べたところ、10～20歳代の平均消費額は2,969円、30～40歳代の平均消費額は3,647円、50歳代以上の平均消費額は4,015円と、年代が上がるにつれ、平均消費額が増えていることが分かった。（表7）

（表7）世代別の観光客平均消費額

| 項 目      | 人数(人) | 平均消費額(円) |
|----------|-------|----------|
| 10～20 歳代 | 781   | 2,969    |
| 30～40 歳代 | 1,685 | 3,647    |
| 50 歳代以上  | 3,766 | 4,015    |
| 全体       | 6,243 | 3,783    |



(図26) 経済効果試算の推移



※平成18年については、観光アンケート調査を行っていない。

川越市観光アンケート調査報告書平成２２年度  
平成２３年５月

編集・発行

川越市産業観光部観光課

〒３５０－８６０１ 埼玉県川越市元町１－３－１

TEL ０４９－２２４－５９４０（直通） ０４９－２２４－８８１１（代表）

FAX ０４９－２２６－４１０２